

ヤセハリセンボン *Diodon eydouxi* の漂着記録

林 公義・長谷川孝一

Record of Drifting Ashore, *Diodon eydouxi*

Masayoshi HAYASHI and Kooichi HASEGAWA

はじめに

神奈川県鎌倉市由比が浜に打上げられたハリセンボン科魚類の1種を査定した結果、ヤセハリセンボン *Diodon eydouxi* BRISSOUT et BARNEVILLEであることがわかった。本種はMATSUURA and YOSHINO (1984) により、沖縄島の定置網で捕獲された体長187.0mmの個体を基に、日本初記録種として報告された。松浦(1984)によれば本種は従来遠洋性の種とされ、沿岸で見ることが稀であり、分布も世界中の熱帯海域に多く、日本では琉球列島以南と記されている。神奈川県沿岸からの記録は初めてであるので、採集時の状況と査定結果また本種の他県での採捕記録に関する情報も併せて報告する。

採集経過

ヤセハリセンボン(横須賀市自然博物館魚類資料番号 YCM-P 15750)は、1986年10月15日に神奈川県鎌倉市由比が浜海岸で著者のひとり長谷川によって打上げられた1個体が採集された。採集時はすでに天日乾燥の状態にあったが、体色の濃青色は鮮やかに残っており腐敗臭はほとんどなかった。この状態からかなり新鮮な個体が打上げられた様子がうかがえ、数日前から前日までの強風(南風)波浪に原因するものと推定された。標本は全長164.2mmで、胸・背・尾鰭はそれぞれわずかに破損していた。外部の計数形質については表1に比較標本の値と共に示した。

外部形態の特徴と測定値

ヤセハリセンボンを同属の他種と識別をする外部形質の特徴については、松浦(1984)によると尾柄部の背面に2~3本の小棘をもつこと、背鰭と臀鰭が鎌形を呈することで区別される。標本(YCM-P15750、国立科学博物館魚類資料番号 NSMT-P50276)でもこれら

の特徴は確認できた。打上げ標本であるYCM-P15750の個体では乾燥が進んでいたため、尾柄部にある背面小棘はよく認められた。また臀鰭については完全な鎌形状を呈しているが、他の胸・背・尾鰭等については破損が著しく(図1-a)、背鰭の鎌形状は不十分であった。

外観では一見して瘦身な感じがあり、背面は美しい藍色、腹面は白色である。背面と腹側面には暗色の小斑が多数散在し、同色の小斑が背鰭や臀鰭の基部にもある。腹面からみると下顎より後方の咽喉部から両眼の下方にかけて暗色帯があり、液浸標本の状態ではこの暗色帯が黄褐色を呈していた。

体各部位の計測はMATSUURA and YOSHINO (1984)に従った(表1)。体長は日本初記録の個体(琉球大学理学部海洋学科魚類資料番号 URM-P7491)と比較すると、今回鎌倉市由比が浜で採集した個体の方がやや小型(187.0mm VS. 144.2mm)であった。成魚では体長が250mmに達するようなので、沿岸域で採集されるものはほとんどが未成魚と思われる。計測部位における体長および頭長比の値はおおむねMATSUURA and YOSHINO (1984)と一致するが、背鰭と臀鰭基底長については本個体(YCM-P15750)が打上げであるために乾燥していたこともあり、数値に差が認められた。

ヤセハリセンボンの採集記録と分布の検討

神奈川県沿岸における本種の打上げ採集を機会に、他地域における採集状況を検討した。その結果1985年ととりわけ1986年については同じ時期に各所で採集されていることがわかった(表2, 図2)。日本動物園水族館年報によれば、1980~1986年の間に全国の水族館で飼育されたハリセンボン属の中で最も多いのはハリハリセンボン *Diodon holocanthus*で、年間を通して約30館ほどの飼育例がある。ヤセハリセンボンは1984年

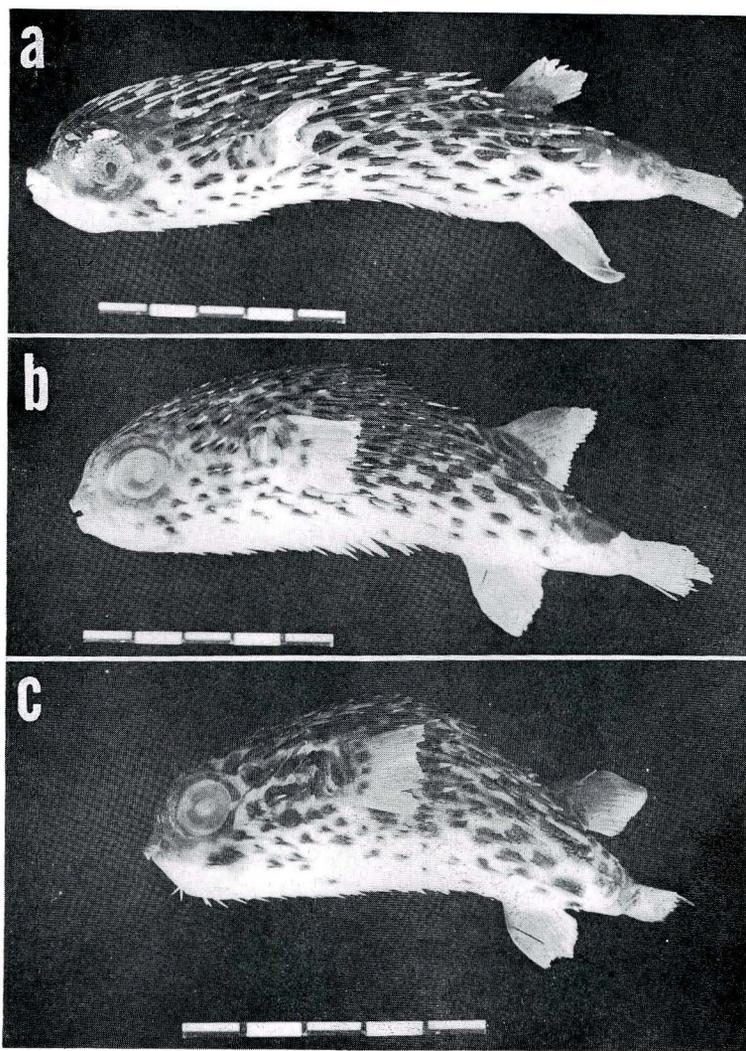


図1 漂着採集されたヤセハリセンボン, *Diodon eydouxi*

- a. 鎌倉市由比が浜 (YCM-P 15750, 体長144.2mm);
- b. 館山市伊戸港 (NSMT-P 50276, 体長110.9mm);
- c. 那珂港市大洗 (体長85.7mm). スケール単位: 5 cm.

に和名新称が与えられ, 本種の存在が1985年頃から各水族館にも普及し始めたようで, 年間飼育魚種名にヤセハリセンボンが記述されるようになったのは1985年からである。表2には1985~1986年にかけてのヤセハリセンボンの採集記録を示した。

各水族館での採集時の概況によればヤセハリセンボンは普通1個体で採集されることが多く, 複数で採集されることは稀であるらしい。また同属のハリセンボンと一緒に混獲されたり(金沢水族館, 鴨川シーワ-

ルドの例), 数日前後にハリセンボンが採集されたりする例(大洗水族館)もあった。主に沿岸から遠くない距離で操業する大敷網やつぼ網などで水揚げされており, このような場合はハリセンボンなどと混じるようで, 港の岸壁や潮だまりなどに来遊したものが採集される例もあった。採集される時期としては主に9~10月に集中しているようである。対馬暖流によって日本海に運びこまれたハリセンボンの幼魚群が冬の北西季節風によって海岸に運ばれる例はよく知られてい

表1 ヤセハリセンボンの外部形質における測定値

標本番号 採集場所 採集日	URM-P7491* 1983. Jun. 20	YCM-P15750 鎌倉市由比が浜 1986. Oct. 15	NSMT-P50276 館山市伊戸港 1986. Sep. 6	那珂港市大洗 1986. Oct. 7
背鰭軟条	16	16	16	16
臀鰭軟条	16	16	16	16
胸鰭軟条	20	20	20	20
尾鰭軟条	i + 7 + i	i + 7 + i	i + 7 + i	i + 7 + i
体長	187.0mm	144.2mm	110.9mm	85.7mm
体高	**3.2	29.6 4.9	32.4 3.4	28.0 3.1
体幅	3.1	37.9 3.8	34.7 3.2	27.4 3.1
頭長	3.1	45.3 3.2	40.0 2.8	34.0 2.5
頭幅	3.9	37.0 3.9	35.7 3.1	28.1 3.0
吻端—背鰭前端	1.4	91.9 1.6	82.4 1.3	65.7 1.3
吻端—臀鰭前端	1.4	95.4 1.5	80.8 1.4	64.2 1.3
吻長	***2.6	15.4 2.9	12.0 3.3	11.4 3.0
眼径	4.4	9.9 4.6	10.4 3.8	9.4 3.6
両眼間隔	1.6	24.2 1.9	22.1 1.8	19.8 1.7
尾柄高	3.7	12.3 3.7	9.8 4.0	8.6 3.9
尾柄長	1.6	27.2 1.7	22.0 1.8	14.3 2.3
背鰭基底長	3.2	10.9 4.2	13.3 3.0	9.8 3.5
臀鰭基底長	2.9	10.5 4.3	13.0 3.1	9.6 3.5
背鰭最長軟条	1.7	(12.0) (3.8)	21.0 1.9	18.4 1.8
臀鰭最長軟条	1.7	22.9 2.0	22.3 1.8	(16.2) (2.1)
胸鰭長	1.9	19.8 2.3	17.0 2.4	(14.9) (2.3)
尾鰭長	1.7	(20.0) (2.3)	(18.4) (2.2)	(18.3) (1.9)

* …MATSUURA and YOSHINO (1984) で報告された日本初記録種の外部計測値。

…各形質の体長比. *…各形質の頭長比.

() 内の数値は標本に欠損箇所あり.

表2 1985, 1986年にみるヤセハリセンボンの採集記録

採集日	採集場所	個体数	体長(mm)	採集後の経過
1985. Sep. 8.	青森県むつ市関根	1	80-100?	浅虫水族館で飼育
1985. Dec. 12.	石川県七尾市百海沖	1	100	金沢水族館で飼育
1986. Aug.	千葉県鴨川市沖	1	100-150?	鴨川シーワールドで飼育
1986. Sep. 1.	和歌山県周参見港	1	117	京都大学白浜水族館で飼育
1986. Sep. 6.	千葉県館山市伊戸港	1	110.9	NSMT-P56276
1986. Oct. 7.	茨城県那珂湊市大洗	1	85.7	大洗水族館で飼育
1986. Oct. 15.	神奈川県鎌倉市由比が浜海岸	1	144.2	YCM-P15750

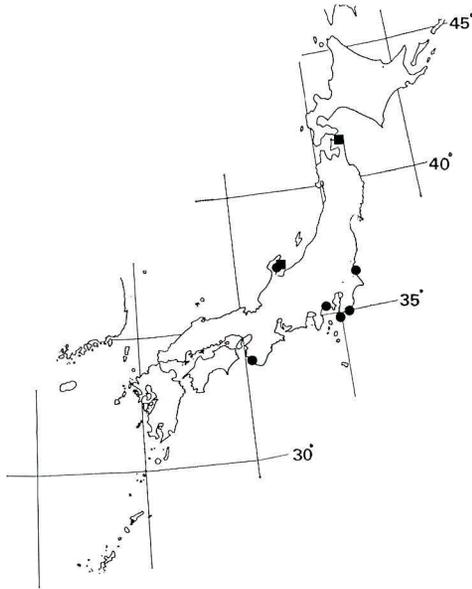


図2 1985, 1986年にみるヤセハリセンボンの採集場所
 ■…1985年, ●…1986年

る。石川県七尾市百海沖で採集されたヤセハリセンボンはハリセンボンと一緒に冬期12月に記録された例である。しかしヤセハリセンボンとハリセンボンでは、幼魚群の北上経路は類似するようであるが、時期的には多少の差があるように思える。西村(1958 a, b, c, d, e; 1960; 1981) はハリセンボンの生活史の中で日本近海に來遊する幼魚群について論議しており、黒潮や対馬暖流など海流の影響による長距離散布の事例として認めている。ハリセンボン属に属する各種類の主たる生活域は熱帯海域であり、産卵海域も台湾近海(ハリセンボンの場合)であるとすれば、ヤセハリセンボンもまた熱帯性魚類が日本近海への海流によって送り出されるのと同じ顕著な漂流傾向にある1種と推則され、同様な現象を小坂ほか(1986)も考察している。

日本近海における南方系魚類の推定漂流経路は、黒潮による太平洋沿岸経路と黒潮の分枝である対馬暖流によって日本海沿岸に運ばれる経路とがある。青森県尻屋崎から千葉県銚子までの1986年9~10月にかけての海況を見ると、津軽暖流の張り出しが強く、沿岸を南下りに進む流れで、表層水温は23°C(水深100m下で12°C)位で平均より高水温という状況であった。太平洋沿岸経路による散布は当然考えられるが、前述のような海況と採集地点などから判断して、対馬暖流

によって日本海に進入した幼魚群の一部はさらに津軽暖流によって南下することが推測される。

おわりに

本報告を作成するにあたり資料の査定、標本の借用、資料や記録の紹介など援助賜った大洗水族館望月利彦氏、浅虫水族館杉本 匡氏、金沢水族館佐野 修氏、京都大学白浜水族館田名瀬英朋氏、国立科学博物館松浦啓一氏、江の島水族館萩原清司氏、沖縄海洋博水族館戸田 実氏、鴨川シーワールド・松島水族館およびサンシャイン国際水族館飼育課の方々に深く感謝する。

引用文献

- 小坂収一・森 一行・金原 功, 1986 房総の海・黒潮とそのいきもの達(昭和61年夏・特別展示). さかまた, (28): 2-3.
- MATSUURA, K., T. YOSHINO, 1984 Records of three tetraodontoid fishes from Japan. *Jap. J. Ichthyol.*, **31** (3): 331-334.
- 松浦啓一, 1984 フグ亜目. 日本産魚類大図鑑, 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編, pp. 348-352. 東海大学出版会, 東京.
- 西村三郎, 1958 a 熱帯・亜熱帯性動物—とくに魚類—の日本海への流入ならびにその内部における移動に関する一考察. 日水研年報, (4): 113-119.
- 西村三郎, 1958 b 日本列島対馬暖流域におけハリセンボンの“寄り”現象について—I. “寄り”の地域的・時期的出現状態(1). 日海誌, **14**(2): 53-58.
- 西村三郎, 1958 c 同 上 —II. “寄り”の地域的・時期的出現状態(2). 同前, **14**(2): 59-63.
- 西村三郎, 1958 d 同 上 —III. “寄り”の生態学. 同前, **14**(3): 103-107.
- 西村三郎, 1958 e 同 上 —IV. “寄り”の機構に関する考察. 同 前, **14**(3): 109-116.
- 西村三郎, 1960 日本近海に來遊するハリセンボンの生活史1. 産卵および回游. 日生態誌, **10** (1): 6-11.
- 西村三郎, 1981 地球と海の生命. pp. 284. 海鳴社, 東京.
- (林 公義:横須賀市自然博物館, 長谷川孝一:鎌倉市由比が浜2-19-36 コーポ三光)